愛老園だより

第103号

— 発　行 —
社会福祉法人 三友会
伊勢崎市太田町686
☎0270－23－2277

撮影：愛老園デイサービス農園にて

地域リハビリテーションの役割と重要性

愛老園提携リハビリ指導
株式会社ゆうあいリハビリライフケア　塩澤　仁志

地域リハビリテーションとは「障害のある人々や高齢者およびその家族が、住み慣れたところで、そこに住む人々とともに、一生安全にいきいきとした生活が送れるよう、医療や保健、福祉及び生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行なう活動のすべてを言う」と定義されています。

そこで私たち理学療法士、作業療法士の役割として、障害の予防や改善、生活の再構築、そして地域社会における自立生活の安定化、QOL維持・向上を目指すと共に、社会参加を支援することで、どのように年老いても、障害があっても住み慣れたところで、その人らしく暮らせる様に、地域にて全力でリハビリテーションをしています。

現在の日本では令和3年10月1日現在65歳以上人口が3，621万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）は28・9％となり、昭和25年には5％に満たなかった高齢化率は増加の一途を辿っています。

また、令和47年には38・4％に達すると予測される高齢化率をみても、私たちリハビリテーション専門職の役割と重要性はさらに高まると感じています。

簡単に言うと、未来の為には、私たちリハビリテーション専門員の個別的なリハビリテーションだけではなく、様々な事業所や職種の垣根を超えて連携協力を図り、本人家族のみならず身近な方々の力を借りて、多角的にリハビリテーションを実施し、この超高齢社会を乗り切っていく事が、今後の地域リハビリテーションのカギになると考えます。

令和５年度　社会福祉法人三友会　決　算　報　告

貸借対照表

令和６年３月３１日現在（単位：千円）

資産の部		負債の部	
流動資産	555,999	流動負債	58,953
固定資産	741,743	固定負債	18,109
		負債の部合計	77,062
		純資産の部	
		基本金	67,425
		国庫補助金等特別積立金	142,583
		その他の積立金	56,416
		次期繰越活動増減差額	954,256
		純資産の部合計	1,220,680
資産の部合計	1,297,742	負債及び純資産の部合計	1,297,742

事業活動計算書

（自）令和５年４月１日　（至）令和６年３月３１日

サービス活動増減の部	サービス活動収益計	618,774
	サービス活動費用計	637,024
	サービス活動増減差額	△18,250
サービス活動外増減差額	サービス活動外収益計	1,885
	サービス活動外費用計	1,394
	サービス活動外増減差額	491
経常増減差額		△17,759
特別増減の部	特別収益計	0
	特別費用計	132
	特別増減差額	△132
当期活動増減差額		△17,891
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額	972,147
	当期末繰越活動増減差額	954,256
	その他の積立金積立額	0
	次期繰越活動増減差額	954,256

資金収支計算書

（自）令和５年４月１日　（至）令和６年３月３１日

事業活動による収支	事業活動収入計	620,405
	事業活動支出計	608,741
	事業活動資金収支差額	11,664
施設整備等による収支	施設設備等収入計	0
	施設設備等支出計	249,311
	施設設備等資金収支差額	△249,311
その他の活動による収支	その他の活動収入計	694
	その他の活動支出計	2,816
	その他の活動資金収支差額	△2,122
予備費支出		0
当期資金収支差額合計		△239,769
前期末支払資金残高		770,935
当期末支払資金残高		531,166

熱中症の予防・対策

○水分はこまめに塩分はほどよく
（スポーツドリンク、20～40倍に薄めたためんつゆ、梅干し、塩昆布など）

○日常的に適度な運動
（気温があがり始める初夏から散歩等の軽い運動をし汗をかく習慣を身に付ける）

○適度な食事　十分な睡眠を
（エアコンや扇風機を使う。通気性や吸水性のよい寝具を使用する）

○衣類の工夫
（麻や綿など通気性のよい生地を選び、下着は吸水性、速乾性に優れた素材を

○日差しを避ける
（帽子や日傘をさして直射日光を避け、なるべく日陰を選んで行動する）

○冷却グッズの使用
（冷却シートやスカーフ、氷枕などの冷却グッズを使用し首元などの太い血管があるところを冷やすと効率的）

○飲み物は持ち歩き、こまめな休憩を
（出かける時は飲み物を持ち歩きすぐに水分補給できるようにし無理をせずこまめに休憩をとる）

熱中症にご注意

手軽な「めんつゆ水」

〔作り方〕
コップ1杯の水（約 200ml）に好みのめんつゆ（3倍濃縮）ティースプーン1～2杯（5～10ml)を入れて混ぜる。

めんつゆに使われている醤油には塩分（ナトリウム）・出汁には昆布や鰹節などから抽出されたカリウムやミネラルなどがたくさん含まれているため汗をかくことで失われがちな水分や塩分を補うことができます。

編集手帳

猛暑の日々が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。

パリオリンピックが開催され、日本選手の活躍に、うれし涙、悔し涙、毎日感動の日々でした。今までの取り組みがあるからこそ、思いがあふれます。

高校野球では、高校球児の魂が飛び交いました。

表紙の写真に関しては、『愛老園農園』で皆様が愛情たっぷりに育ててきてくれた野菜たちが見事な花を咲かせています。

実をつけた採れたてを、利用者様と調理し、おやつにいただき、元気をもらいます。

もうすぐ下半期となり今年もアッという間です。色々な〝あつさ〟を乗り越え、夏バテをしない様にお過ごしください。

次の方からご寄付を戴きました。厚くお礼申し上げます。

愛老園

（令和6年3月18日～令和6年7月1日）

【寄付金】
・市内鹿島町　木暮　恒二
・〃　中央町　岡田　武夫
・〃　中央町　柳澤紀久子
・群馬ダイハツ自動車労働組合　執行委員長　佐山　敬亮

【物品】
・さいたま市浦和区　岩立　哲也
・高崎市京目町（株）八木造園　会長　八木　公治

（敬称略）

百寿をともに…
～看護小規模多機能施設広瀬～

私たちの施設は25名の定員に現在21名の方々にご利用いただいております。その中で、4名の方が100歳を超えられているという驚くべき事実があります。これは、ご利用者様の日々の努力と地域の皆様の温かいご支援のおかげです。

先日、特別な出来事がありました。市役所の職員の方々が、当施設で100歳を迎えられたご利用者様のお祝いに「100歳到達慶祝」の賞状と記念品をもってきて下さったのです。この素晴らしい瞬間をともに祝うことができ、施設内は感動と喜びで包まれました。

この日、100歳を迎えられたご利用者様は、99歳を迎えられた冬、肺炎になり通院で点滴を行う状態になってしまいました。娘様一人での介護ではご負担も多いことから、こちらに宿泊しケアをさせていただくこととなりました。

ケア開始より数日は、熱も下がらず、お食事も召し上がれない状態でしたが、数日すると回復され、笑顔を見たときは、職員一同、ほっと安心したことが思い出されます。

また、他愛もない会話の中で職員と一緒に涙を流し、笑い合う場面がありました。その一つ一つのエピソードが私たち職員の心に深く刻まれています。

どちらのご利用者様ももちろんですが、特に100歳を超えるご利用者様たちは、私たち職員にとっても特別な存在です。その穏やかな笑顔や、長い人生を振り返るお話は、私たちにとってかけがえのない宝物です。

これからも、皆さまのご支援とご協力を賜りながら、よりよい施設運営を目指してまいります。ご興味のある方は、いつでもご連絡ください。お待ちしています。

『看護小規模多機能施設広瀬』では、医療と介護が一体となり、ご利用者様ひとりひとりに合わせたケアを提供しております。24時間365日対応可能な体制を整え、ご利用者様が安心して生活できるようサポートしています。

園芸福祉士がいる愛老園デイサービス農園

デイサービスでは昨年の秋頃よりご利用者様と一緒にプランターを利用し、季節の野菜の種をまき、水やりをしたり南庭へ散歩をしながら野菜の育つ過程を見て、収穫できそうな物から随時収穫をし、漬物などにして、おやつ時に味見として提供させていただいています。利用者様も来園時に「野菜はどう？」と気にしていただいたり楽しみにされています。

ご利用者様の楽しみの一つとして今後も取り組んでいきたいです。

地域の居場所

上之宮会議所にて『しどりの会』に参加し、【高齢者相談センターの紹介】や【脳トレ】【消費者被害にひっかからないポイント】など参加者、協力者、職員ともに「わがごと」として知りたいことや気になっていたことを楽しく学びました。

地域の支援を受けながら～顔の見える繋がり～を大切に今後の仕事にもいかせていけたらと思っています。

あゆみだした いばしょ のほほん広場

のほほん広場の現況とこれから

4月より地域の方々の「自分のいばしょ」として、のほほん広場を開設し、6月にはのべ320人の方々にご利用等いただきました。

●食事の提供…

「美味しいご飯が食べることができ、おしゃべりもカラオケもできてこんなにいい所が近くにできてホント良かった。」…常連さんになっていただいた一人暮らしの高齢者の方の感想です。

●こども食堂…

6月から新たに始まった金曜日のこども食堂は美味しいご飯の提供とゲーム等で盛り上がっています。ひとり親世帯の利用者からは「本当に助かるし、美味しいご飯を食べることができてうれしい。」という声も。夏休みは毎日、朝からこどもたちがのほほん広場にやってきます。

●緊急一時保護…

伊勢崎市の人権課からの要請で、2家族を4月と7月初めに緊急で受け入れました。子ども達のことが心配ですが、のほほん広場にいる間は母子ともにリラックスしてもらえたのではと思います。

●今後について…

今後も既存のセーフティネットから落ちてしまい、孤立したり、行き場が無くなってしまうような方々のためのオアシス的な存在を目指します。また、2学期以降は小中高校生等の若年層の居場所づくり、ボランティア啓発等の働きかけもより強化していきたいと考えています。